



2021.8
NO 89

●今月号の主な内容

- 【活動 G】ごはん研 伊深食堂第 2 回を実施 1
- 【名所・旧跡紹介】29 旧伊深村役場 2
- 協議会の動き 2

伊深まちづくり協議会ホームページ

<http://ibukamachi.com>

または **伊深まち協**



【伊深ごはん研究会】伊深食堂 第 2 回を実施しました

—— 今回は「みょうが寿司」「みょうがぼち」で

伊深食堂



▲楽しく、手際よく進みました



▲みょうが寿司の材料と包むところ



◀「みょうがぼち」を蒸すところ



▶ 交流センターの玄関で提供しました。

7.13 (火)、新交流センターとなってから 2 回目となる“伊深食堂”を、今回も持ち帰り方式で実施しました。

今回提供したのは、夏らしいみょうがの葉を使った「みょうが寿司」と「みょうがぼち」で、伊深ごはん研究会メンバーのうち 7 人といぶカフェ店主夫妻、それと市の広報 7 月号で研究会の活動を知り、「ぜひ参加したい」と飛び入りされた太田町の方を含め 10 人で調理しました。

皆さん手際がよく、楽しい雰囲気の中で、あっという間に 2 品を作り上げていきました。そして「みょうが寿司」を 500 円、「みょうがぼち」を 300 円で提供し、前回同様開始早々終了となる盛況ぶりでした。

今回は地区外からの新たな参加者も加わり、“伊深の郷土料理を広く伝えていきたい”という活動のねらいがひとつ前進した催事となりました。

※「みょうがぼち」は岐阜県美濃地方中西部から西部で、初夏に作られる伝統的郷土菓子のひとつとされています。

生活の中で、何かお困りごとはありませんか？

ちょっとしたことならお手伝いできるかもしれません。
各地区の「(ちょっとたのお輪) 連絡員」または下記にご相談ください。

080-1561-4013





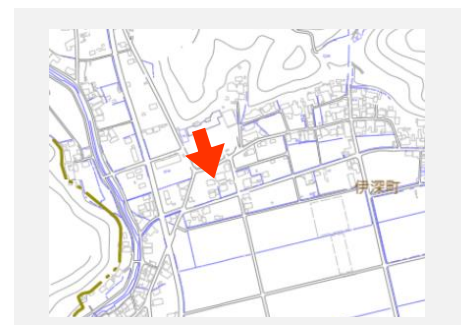
▲ 改装後の建物内部と運営者の齊藤夫妻

昭和 11 (1936) 年に旧伊深村の庁舎として建てられたこの建物は、同 29 (1954) 年の美濃加茂市発足後は市伊深支所、同 44 (1969) 年からは市伊深連絡所、そして旧連絡所新築後の同 56 (1981) 年からは伊深の中央公民館的な役割をもつ伊深自治会館として永年使われてきました。しかし耐震性の問題などから存続の是非が議論されるようになり、平成 26 (2014) 年には自治会館としての使用を中止していました。

一方、存続を望む住民の声やこの建物の歴史的価値を高く評価する建築専門家などの意見もあり、同 28 (2016) 年に国の登録有形文化財に登録されたことから伊深住民の新たな活動拠点のひとつとして位置づけられることになりました。

伊深まち協では市と協働で数回にわたる住民参加の話し合い(ワークショップ)を実施し、活用方法を議論した結果、地区外からの来訪者の窓口機能も果たす“カフェ”として活用することになり、同 30 (2018) 年には復元工事が完成、現在では地域密着型の“いぶカフェ”として運営されています。

▼位置 標柱：あり



※平成 28 年諮問当時の資料(岐阜県)より

： 本建物の特徴等について

- ・登録基準： 「1 国土の歴史的景観に寄与しているもの」
- ・説明(抜粋)： 「美濃加茂市で現存する唯一の戦前の庁舎であり、昭和初期における地方公共建築の技法を今日に伝えるものである。また、集落の中心に位置しており、旧伊深村の近代を象徴する建物である。」

協議会
の動き

7月定例会(7.21(水))の
あらし

●協議：

1. JA 倉庫の借用に伴う費用分担について JA 倉庫の一部を地域の各種団体に借用することに伴い、備品購入費などの分担をお願いしていくことになった。

●報告：

1. 遊休農地でのそば試験栽培の実施について 飛騨地方でそば製品を作っているグループの縁者から「伊深で『春そば』を作れないか」との相談があり、遊休農地活用、将来の特産品化

をめざし試験栽培を行うことになった。

2. 学童クッキングの実施について 夏休み中の学童活動について、ごはん研究会が協力し交流センターで調理実習を行うことになった。

●その他：

各種団体からの報告 など

伊深まちづくり協議会だより 第89号

2021. 8. 1発行(毎月1回1日発行)

発行責任者 伊深まちづくり協議会 会長 小林 喜典

事務局 美濃加茂市伊深町927-1(※新住所です)

伊深交流センター内

電話 0574-29-1395 FAX 0574-29-0001

※ ご意見・お問い合わせもこちらまで

